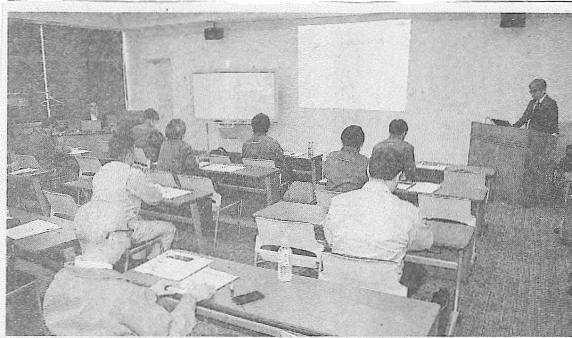




測量の品質確保

日測協道支部

釧路市でセミナー

【釧路】日本測量協会北海道支部は29日、釧路建設会館で測量・地理空間情報技術者向けのアドバンスセミナーを開いた。測量技術の最新動向や品質確保など、受講した17人が見識を深めた。

北海道測量設計業協会が後援した。

日本測量協会測量技術教育部の桑原毅次長が「新しい気付きや学びにつながる」とあいさつし、業界動向を紹介。2025年度に国土地理院が提供する測地成果が、衛星測位を使ったものに改定され「地殻変動で累積した現実と標高成果のずれの解消が可能」と説明した。

続けて30年以降、準天頂衛星みちびきが現行の4機から11機になる見通しを伝え「高仰角、広範囲で測位精度向上が見込まれる」と期待した。

測量業界の最新動向を学んだ
このほか、日本測量協会の白井直樹常任参事が技術提案書作成、瀬戸島政博顧問が技術者の上位資格取得の要点、道支部の小枝登技術センター長が公共測量成果の品質確保を解説した。